

令和3年度
「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」
【大阪市の結果】

大阪市教育委員会

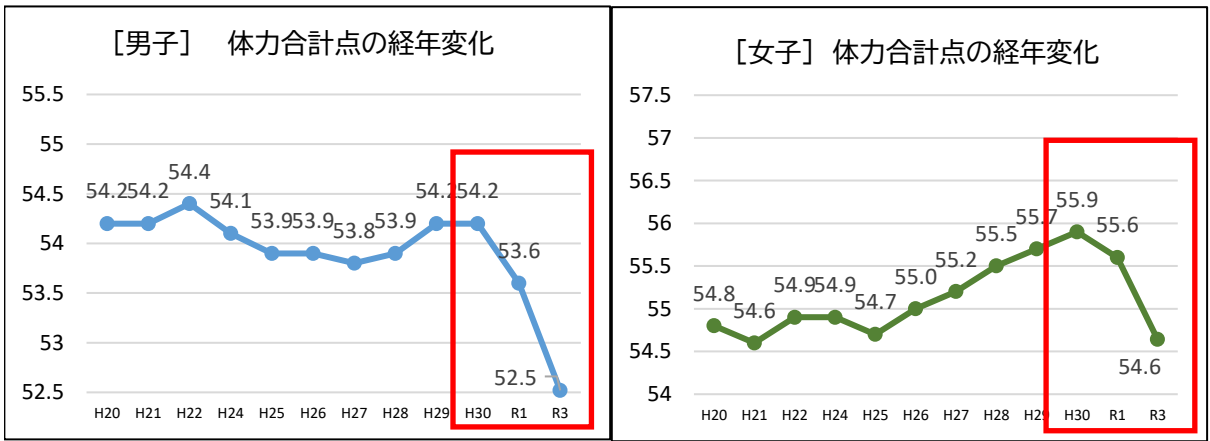
目 次

○令和3年度 全国体力・運動能力運動習慣等調査結果のポイントについて	P3
○令和3年度 大阪市の結果のポイントについて	P4
○令和3年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果【大阪市の概要】	P5
○新体力テストの得点表及び総合評価基準表	P14
○実技に関する調査結果	
① 種目別実技及び総合評価度数分布(小学校)	P16
② 種目別実技及び総合評価度数分布(中学校)	P19
③ 体力合計点における対全国比の経年比較	P23
④ 各種目における対全国比の経年比較	P24
○1週間の総運動時間	P25
○1週間の総運動時間経年比較	P26
○運動に関する意識・行動の変化【大阪版】	P27
○運動活動量の少ない児童生徒の状況について	P29
○実技における対全国比の変化	P36
(平成 30 年度小学校5年生→令和3年度中学校2年生)	
○令和4年度以降の数値目標	P37
○児童生徒質問紙から見える回答の割合の変化	P38
(平成 30 年度小学校5年生→令和3年度中学校2年生)	
○体力合計点低下要因の分析(平成 28 年度より5年間)	P42
○児童質問紙調査結果	P44
○生徒質問紙調査結果	P65
○学校質問紙調査結果(小学校)	P86
○学校質問紙調査結果(中学校)	P94
○大阪市子どもの体力づくり強化プラン【令和3年度版】	P102
○いっしょにのぼそう 子どもの体力(令和3年度版)	P104
参考:指定都市を除いた都道府県及び指定都市別体力合計点	P106

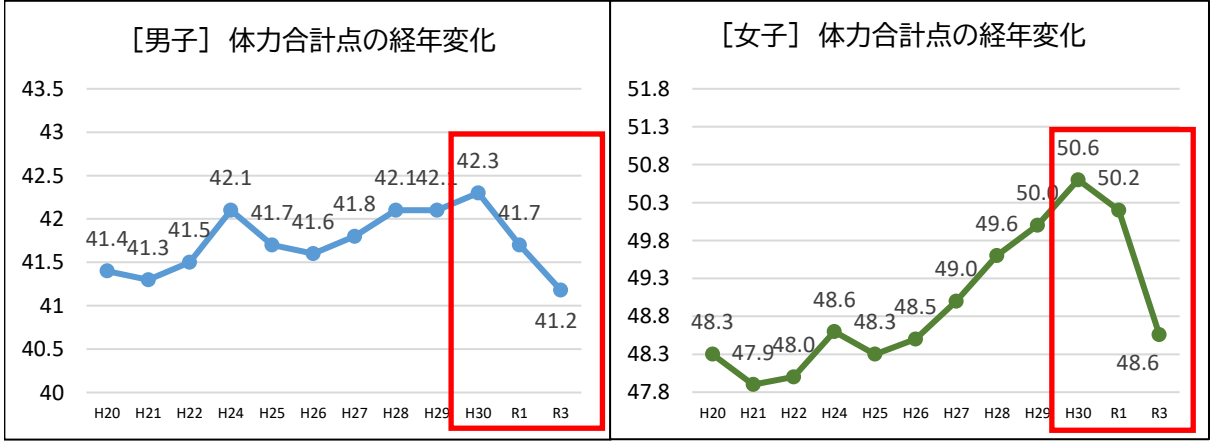
令和3年度 全国体力・運動能力運動習慣等調査の結果のポイントについて

平成20年度の調査開始以降の推移をみると、令和3年度は小・中学生の男女ともに低下した。特に、小・中学生男子は過去最低の数値であった。

(小学校) (全国平均)



(中学校) (全国平均)



低下の要因

低下の主な要因としては、令和元年度から指摘された、

- 運動時間の減少 ⇒ 1週間の総運動時間が420分以上の割合の減少。特に男子が顕著。
- 学習以外のスクリーンタイム※の増加 ⇒ 視聴時間が2時間以上の割合が増加。特に男子が長時間化。
- 肥満である児童生徒の増加 ⇒ 特に小学生男女、中学生男子は過去最大の数値。

について、新型コロナウイルス感染の影響を受け、更に拍車がかかったと考えられる。

また、コロナの感染拡大防止に伴い、学校の活動が制限されたことで、体育の授業以外での体力向上の取組が減少したことも考えられる。

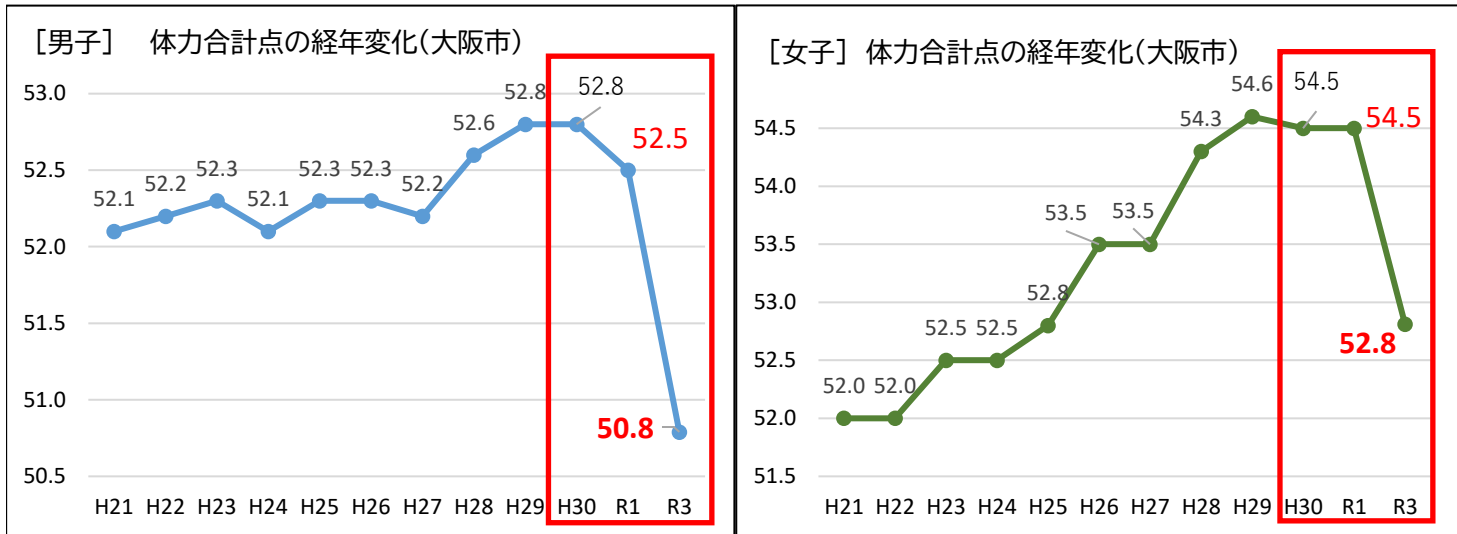
※スクリーンタイム…平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機による映像の視聴時間

令和3年度 全国体力・運動能力運動習慣等調査の結果より

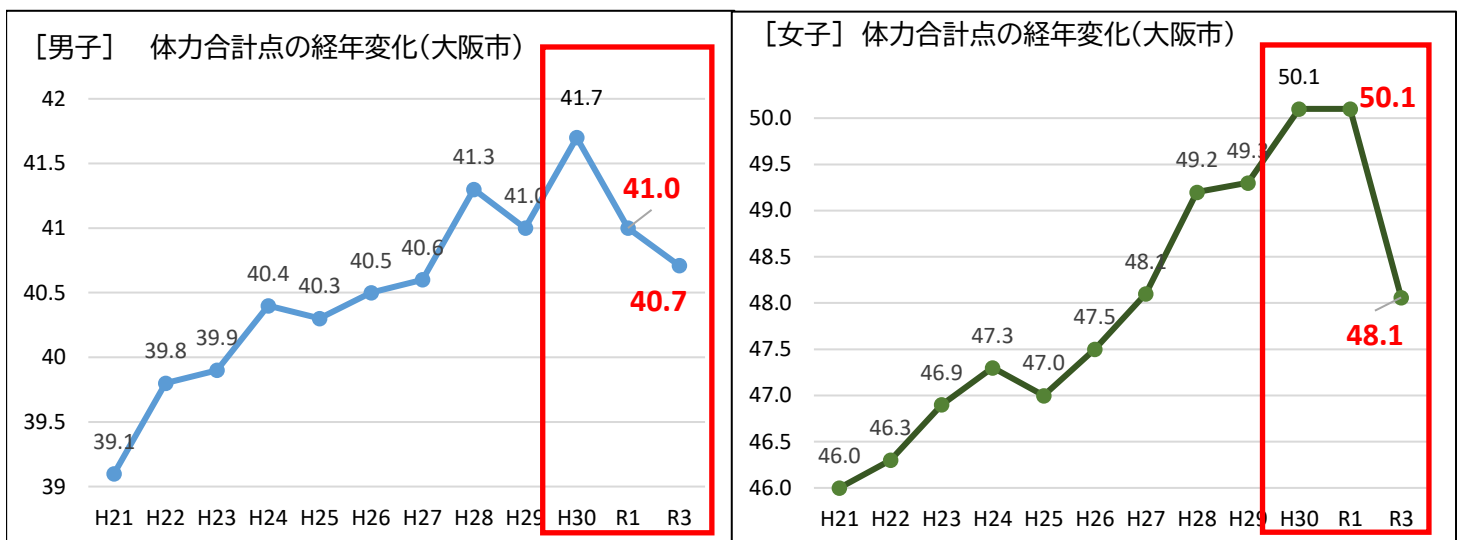
大阪市

平成21年度の調査開始以降の推移をみると、令和3年度は男女ともに低下した。(H20は抽出校のみ)
特に、小学校男子は過去最低の数値であった。

(小学校)



(中学校)



大阪市の現状

- ① 本市の体力合計点は、全国平均より下回っているが、近年は向上傾向にあった。
- ② 令和元年度と令和3年度は、全国と同様に大幅に低下し、全国平均との差が開いている。
- ③ 本市としては、今後、調査結果を分析し、「新しい生活様式」を踏まえたうえで授業や体育的教育活動の工夫・改善に取り組んでいく。

令和3年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果【大阪市の概要】

1 調査の目的

- (1)子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3)各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査対象者

小学校第5学年

中学校第2学年

(ただし、小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒については、その障がいの状態等を考慮して、参加の是非を適切に判断すること。)

3 調査事項

(1)実技に関する調査(新体力テスト)

◇小学校調査〔8種目〕

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、
立ち幅とび、ソフトボール投げ

◇中学校調査〔8種目〕

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走(男子 1,500m、女子 1,000m)、
20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択して実施する。

(2)質問紙調査

◇児童・生徒質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査を実施する。

◇学校質問紙調査

子供の体力・運動能力等の向上等に係る取組等に関する質問紙調査を実施する。

4 調査実施日

令和3年4月から令和3年7月末までの期間に実施する。

(※1～4はスポーツ庁の実施要領を参照)

5 大阪市立学校の参加状況

◇小学校287校すべてが参加(参加児童数 18,687人)

◇中学校130校が参加(参加生徒数 15,909人)

6 調査結果の概要

(1)実技に関する調査

<全国の結果の令和元年度との比較>(スポーツ庁分析より)

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症(以下、「コロナ」という。)の影響により調査を中止した。

◇小中学生の男女ともに低下した。・小・中学生の男女ともに、令和元年度に比べ、「上体起こし」、「反復横とび」、「20m シャトルラン」、「持久走」については大きく低下した。「長座体前屈」は概ね向上していた。「握力」、「50m走」、「立ち幅とび」、「ボール投げ」については、中学校男子以外は低下傾向がみられた。

<令和3年度全国調査結果との比較>

◇小学校では、男女ともすべての項目で全国平均を下回った。

特に、男女とも「反復横とび」、「20m シャトルラン」において、大きく差があった。

(重点種目;反復横跳び・20mシャトルラン・50m 走・ボール投げ)

◇中学校では、男子は「握力」、「上体起こし」、「反復横とび」で全国平均を上回った。女子は「上体起こし」、「反復横とび」で全国平均を上回った。一方、男子は「20m シャトルラン」、「立ち幅とび」、女子は「20m シャトルラン」、「50m 走」、「立ち幅とび」においては、大きく差があった。

(重点種目;20m シャトルラン・男子の立ち幅とび・女子の 50m 走)

<大阪市の結果の令和元年度との比較>

◇小学校では、男女とも令和元年度と比べ、「長座体前屈」だけ向上した。

特に、男子では「反復横とび」、「20m シャトルラン」、「50m 走」、「ボール投げ」、女子では「反復横とび」、「20m シャトルラン」、「ボール投げ」において、大きく低下した。

◇中学校では、男子は「握力」、「長座体前屈」、「反復横とび」、「50m 走」、「立ち幅とび」、女子は「持久走」だけ向上した。一方で、男子は、「20m シャトルラン」、「立ち幅とび」、女子は「20m シャトルラン」、「50m 走」、「立ち幅とび」において、大きく低下した。なお、本市では「20m シャトルラン」を選択し測定するよう周知している。

<体力合計点経年比較>

◇本調査において、体力合計点における経年比較について考察すれば、全国平均値との差はあるものの、概ね全国平均値と同様の傾向を示している。中学校2年男子については、全国平均値に近づく結果であった。

<総合評価>

◇小学校では、全国の割合と比べて、男女ともに、A・Bの割合が低く、D・Eの割合が高かった。

特に、大阪市の平成28年度から比べると、DとEを合わせた割合が、小学校男子で4割、小学校女子で3割を超えている。

◇中学校では、全国の割合と比べて、男子では、Aの割合が低く、D・Eの割合が高かった。女子では、A・Bの割合が低く、Dの割合が高かった。

※総合評価とは、合計得点を、年齢別男女別の総合評価基準にしたがって、高い方からA～Eの順に5段階で評定した評価である。